

<会員通信>

『自由研究発表要旨集録』の「発表要旨」の改善充実を

佐々木 享 (愛知大学短期大学部)

大会における研究発表と『教育学研究』誌の論文の質の向上を課題としたいと寺崎会長が強調されたことに心から賛同し、99年夏の第58回大会で感じたことを一筆する。

発表の多くは新鮮で充実していた。しかし『自由研究発表要旨集録』に収録された「発表要旨」については、研究の目的や課題意識、先行研究などを説明しているのに、発表内容とくに結論というべき事項を記載していないなど、感心しないものが少なくなかった。

『教育学研究』誌の「日本教育学会第58回大会のご案内」には「発表要旨が(は、のミスプリントか)文部省学術情報センターのデータベース(NACSIS-IR)に登録されることになっています。」とあるので、いわば要旨の体をなしていない「要旨」がそのままデータベースに登録されることになってしまう。これは基本的には執筆した本人の責任に属するとはいえ、本学会としても決して芳しいことではない。

私見の概略を率直に述べれば、①学会における口頭発表は、その内容は「発表要旨」で確認できるので、発表者のPriorityが発生するものである。②したがって「発表要旨」には、研究の目的、先行研究との関連(でみた論点)、研究方法ないし活用した資料、結論など、通常の学術論文に要求される内容の概略をきっちりと記すべきである。③限られたスペースに発表の要点をすべて書き込むことは、簡単ではない。しかし研究者にはそうした訓練も要求される。④少なくとも「詳細は口頭で述べる」といういわずもがなのことを書くスペースがあるなら、一字一句でも内容本文を充実させる厳しさが欲しい。

こう書けば、乃公如何と問われることになろう。むしろたいした発表もしていない私としては内心忸怩たるものがある。しかしこの種のことは、気づいた者が言い出さなければいつまでも改善されないように思われる。蛮勇を奮って一筆する所以である。

日本教育学会ホームページ開設のお知らせ

URL <http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jsse4/index-j.html>

日本教育学会会員名簿の作成について

今年度より、会員名簿を2年に1回刊行することにいたしました(2000年秋に刊行予定)。現在の名簿掲載内容をご確認のうえ、変更等がおありの方はすみやかに事務局までご連絡ください。